

東北アジア学術交流懇話会ニューズレター

うしとら

第52号

● 目次 ●

論点：中朝国境上の火山、白頭山	1
東北アジア通信：続 不思議の国、韓国滞在記	2～5
会員の広場：韓国社会を変えている「多文化」の風	6
編集後記	6



中朝国境上の火山、白頭山

東北大学東北アジア研究センター 助教
(火山地質学・火山岩岩石学)
宮本 毅



2011年の年末に朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の金正日総書記が亡くなったという衝撃的なニュースが世界中を駆け巡った。これは政治面での大ニュースであるが、火山を地質学的に研究している私にとっても、ある意味で大変衝撃的なニュースであった。

中国・北朝鮮の国境上に、10世紀中葉に巨大噴火を起こした白頭山（中国名：長白山）という火山がある。我々はこの10世紀噴火を対象に、中国領内での噴出物調査を行ってきた。

10世紀噴火の規模は過去2000年間で世界最大級の噴火のひとつとされ、もしこのような噴火がふたたび発生した場合には東北アジア諸国一帯で大きな影響を受ける可能性が高く、10世紀噴火の全容を知ることは火山防災上重要である。



写真 北朝鮮側からみた白頭山（標高2,744m）山頂カルデラ湖“天池”（周囲約13km、最深384m）

白頭山の南東1/4の地域は北朝鮮領内にあるため、噴火の全貌を知るには是が非でも朝鮮側の情報は欲しいものである。我々は2005年9月に北朝鮮での現地調査を2日間だけ実施することができ、予測通り中国側では観察されない噴出物が存在するなどの知見も得られた。

その後は本格的な調査を実施すべく北朝鮮の地質研究者ともコンタクトを取り、日中朝3カ国共同調査実施のための会議を数回、日本・中国において開催した。何とか本格的調査の実施が現実味を帯びてきた矢先に、2006年7月のミサイル実験、続く核実験問題が勃発し、北朝鮮への渡航自粛勧告となってしまった。

その後も北朝鮮側とは細いながらもコンタクトを取りつつ、状況が好転する日をひたすら待ち、日朝間の状況が変化するたびに右往左往するというのが現状である。これが冒頭のニュースを衝撃的に捉えた理由である。

短期間とはいえ北朝鮮で調査を実施した経験は、地質学はもとより他分野の国内、国外の研究者からも羨まれるほど現状では実現が難しい。人類は小惑星帯の調査まで行う時代になっているが、すぐお隣にそのような未知の世界が広がっているのである。月並みな言い方だが“近くて遠い国”という言葉を感じられる場面である。今後、金正恩氏が継承することは間違いないようであるが、その政治路線は先代を踏襲するのか、それとも新たな展開へと向かうのか。政治・経済の面から全世界が見守っているのは間違いないが、世界中の自然科学者も今後の動向を固唾を呑んで注視している。我々もその日が来るまで、はたしてどこまで待つことになるのだろうか。

（2012年3月23日寄稿）

東北アジア通信

昨年発行の第50号「韓国滞在記」では、ソウル駐在2年目の生活者としての目に映った韓国と日本との違いや類似点などについて記していただきました。例えば、よその子供にも良く目を配る大人・早くて安い交通機関・驚くほど高い教育熱・感情も露わに思ったままに言い合った直後に平常生活に戻る人たち、などなど。

本会会員の数人の方から、「いままで韓国TVを見ていると何かしら違和感があったが、これで幾つか合点がいった。」などの感想と共に、続編要請の電話が寄せられました。そこで今号にも寄稿をお願いしたところ、近日中に帰国予定のご多忙中にもかかわらず、快諾を得ました。基本的な国民性の違いには「仏教の教え」（日本人）と「儒教（朱子学）の教え」（韓国人）の差が大きく影響していることなどを踏まえ、つきあい方のコツにまで言及していただいています。（事務局）

続 不思議の国、韓国滞在記

～隣の国なのに、なぜこんなに違うんだろう～

宮城県ソウル事務所 所長 阿部 貴夫



ーお正月が二回！？

私はこの度、ソウルで三度目の新年とソルラル（旧正月）を迎えました。

韓国における1月1日はシンジョン（新正）という祝日ですが、2日、3日は普通の日です。日本では年末の挨拶として「良いお年をお迎えください」と言い合いますが、韓国でも「セエボッマニパドセヨ」（新年も福が来るように）という言葉を使います。そして、新年「明けましておめでとうございます」のように「セエボッマニパドセヨ」と言い合います。韓国は旧暦でお正月を祝うため、およそ一ヶ月後の時期にもう一度この「セエボッマニパドセヨ」をやるわけです。

日本人の私としては、なんだか正月が二回来るようで不思議な気がしたものです。それに年末年始の挨拶を同じ相手に二度するのも可哀しいし、日本のどんと焼きのニュースを見て正月気分もすっかりおさまってきたと思っていた

頃に、街はソルラルの準備にざわめいてきます。なにしろ1月末や2月に入ってから『謹賀新年』の大文字がひときわ美しく街に張り巡らされるのですから・・・。

韓国では、このソルラル当日の朝にトックッ（韓国餅と野菜等を煮たスープ、日本の雑煮にあたる）を食べるのですが、年齢を数え年で言う習慣があるためこのトックッを食べることでみんな一緒にひとつ年をとったということになります。それで、年をとりたくない人はこのトックッを食べなければいいというジョークがあります。

また、ソルラルには親戚一同が集まって長老方に決まった作法で新年の挨拶をしたり、供養の膳を整えて先祖を祀る法事をしたりします。ユンノリという日本の双六に似たソルラルの伝統遊びは、老若男女皆で白熱する、韓国固有の正月遊びです。

韓国の名節、ソルラル（正月）とチュソク（秋夕・お盆）は旧暦で迎えるため、毎年日付が変動します。因みに2011年のソルラルは2月3日で、2012年は1月23日でした。名節の前後二日を休日として三連休になっています。儒教の教えで家族の絆が強い韓国では、大切な日を家族と過ごすとして移動する人が延べ数千万人にもものぼるそうです。「民族大移動」と言われるこの時期、駅やバスターミナルは人でごった返し、高速道路は大渋滞となります。普通なら数時間で到着する距離に、倍以上の時間がかかることもあるそうです。

必然的にこの時期のソウルは閑散として、店舗も休業になるところが多く、在韓外国人や観光客には不便なこともあります。我々とは言えば、最近では休まない店を事前にチェックすることで困ることも少なくなりました。むしろ、遊園地や博物館などに外国人対象の半額クーポンを見つけたりして、混雑しないソウルを楽しむことも出来るようになりました。



伝統衣装の韓服を着た子どもたち

ソルラルやチュソクの朝に、親族の長老方へ決まった作法で挨拶をする時、子どもたちは韓服を身に纏う。袖が鮮やかな色彩の縞模様になっているセットンチョゴリのこの色合いには、厄除けや無病長寿を願う意味がこめられているという。

東北アジア通信

ー「休日」が少ない!?

私は公務員ですので勤務は基本的に暦の通り実直に任にあたっておりますが、韓国駐在においては当地韓国の暦の通り勤務をしております。仕事上、宮城県庁と電話やメールのやりとりをすることも多いのですが、祝日の兼ね合いで連絡が難しいこともあります。普段はあまり気にしていませんが、ふと「今日は県庁が休みか」と気付いて羨ましくなったりします。

韓国で仕事をしていて、常々感じていたことがあります。例えば、去年の12月25日は日曜日でしたが、韓国ではこの日は祝日（聖誕節）です。ところが日曜日と祝日が重なっても、月曜日がお休みにはなりません。なんと韓国には振替休日というものがないのです。そうなのです韓国で働いていると、つい日本の暦と比較して「韓国は休みが少ないなあ」と感じてしまいます。

韓国の2012年度祝祭日（公休日*）

- ・ 1月1日：シンジョン（新暦）
- ・ 1月22日～1月24日：ソルラル連休（旧暦1月1日）
- ・ 3月1日：三一節（独立運動記念日・新暦）
- ・ 5月5日：こどもの日（新暦）
- ・ 5月28日：釈迦誕生日（旧暦4月8日）
- ・ 6月6日：顕忠日（忠霊記念日・新暦）
- ・ 8月15日：光復節（独立記念日・新暦）
- ・ 9月29日～10月1日：チュソク連休（旧暦8月15日）
- ・ 10月3日：開天節（建国記念日・新暦）
- ・ 12月25日：聖誕節（クリスマス・新暦）

*例えば、デボルム（満月の日・旧暦1月15日）・両親の日（5月8日）、ススンエナル（先生の日・5月15日）・成年の日（5月第3月曜）・端午（旧暦5月5日）・ハングルの日（10月9日）・冬至など、名節料理を準備して食べる風習がある日や廃止された以前の祝祭日は、公休日どころでないが古くからの風習を今なお継承して、自然や祖先に感謝を捧げる活発な祝い事が行なわれている。

なるほど実際の祝日数は韓国10日（ソルラルとチュソク連休の4休日を除く）・日本15日と既に差がついていますし、韓国には振替休日制度がないこと、日本には月曜祝日の制度があることなどから、実際にはこの差が更に広がって感じられると思われます。韓国では、休日の多さが経済発展に悪影響を及ぼすという懸念から、1991年から2008年までに祝日を4日も廃止してきたそうです。

今や日本が韓国に対して「ワーカホリック」と呼んでしまってもいいのかもしれませんが。

ー優先順位の違い

韓国の女性は、ことのほかキャップ（野球帽型の帽子）が好きようです。夏に大きなプール施設に行ったときには、水泳帽着用が必須だったのに、このキャップを被ってすましている女性が多いことに驚きました。また日差しの強いソウルの街中ではこのキャップを目深にかぶった女性の姿をよく見かけます。

それから、車も人も多いソウルは空気が悪いとされ、い

ろいろな色や形のマスクがあります。若い男性が真っ黒いマスクをして歩いているのを見かけた時にはギョッとしたものですが、実際に黒いマスクは売られているし、年配の女性などは、眼の下から顔半分を大きく覆って口のところに通気孔のかぶせがある異様なマスクをしています。

ある休日、最寄りの駅前で目深なキャップに大きなマスクを着けた若い女性を見た私は何気なく妻に「若いのにとても大きなマスクしているね」と話しかけました。その時の妻の答えは予想外のものでした。「ああ、整形したんじゃない？」それに驚いた私に妻は「珍しくない、よく見る光景」だと言うのです。大きなマスクをしている人はあごのラインを整形した人、目深にかぶった帽子の下にT字の絆創膏を貼っている人は鼻の整形をした人だということでした。

このような様子で歩いている人をたまに見かけていたので、気になって大学生のトウミ（妻が通った大学付属の語学学校に制度のあった現役大学生によるチューター）に聞いてみたところ、話をきかせてくれたそうです。

なにしろ驚いたことには、家庭において娘さんが年頃になって容姿に悩むとその父親が「ミアナダ」（すまない）と言って手術費用を渡す、というのです。それを聞いた時は妻も「お父さんが!? すまないって!?」と大きく聞き返してしまったということでした。我々日本人には衝撃的な事実ですが、それほど韓国社会には溶け込んでいる美容整形だということでしょう。

では、なぜそうなるのか？私の周りの韓国の方に聞いてみたところ、就職の際に会社の求人要項には「容姿端麗」が条件としてトップに躍り、面接では容姿の順に高評価がつくということでした。より良い会社に入るために美容整形も当たり前だという人も多いのだという答えが返ってきました。なにしろ政府要人でさえ「女性は顔」と公言して憚らないというのですから、これから韓国社会の一員になるろうという時には何よりも「見た目」が重要であるようです。いい大学に入るために勉強するように、いい会社に入るために整形する。これは韓国においては親孝行でもあり、上手に生きてゆくために必要なことなのでしょう。隣の国の文化の違う我々が、「美容整形」の一部分だけを見てどうのこうのと口を出す問題ではないのかもしれないと思いました。

今日もソウル市を大挙して走っているバスの側面には、美容整形外科の広告が大々的に掲げられていて、ビフォーアフター写真の美女の笑顔が街を駆け抜けています。その宣伝文句の中には「再手術専門医」の文字が……。これほどに美容整形が社会に受け入れられているのだから、場数を踏んでいる医師の腕も相当なものなのでしょう。それにしても「お直し」専門とは恐れ入ったものです。

ー母親孝行な息子たち

ソウルの街でよく見かける光景のひとつに、腕を組んで歩く人々というのがあります。これは様々な年代のカップ

東北アジア通信

ルばかりでなく、女子学生同士はもちろんのこと男子学生にも多く、年配の女性同士、年配の男性同士でも腕を組んで歩いている姿を目にすることがあります。更には母親と息子という二人が腕を組んで歩いている姿も珍しくありません。そういう時には、母親の鞆や荷物は息子が抱えていることが多いです。

韓国の男性達は、おしなべて皆「オモニ（お母さん）」が大好きです。私と同年代か年上の男性でも母親を呼ぶときに「オンマ（ママ）」と言ったりします。もともと男というものは母親に甘える生き物であるようですが。

韓国ではその男の子たちが男の人になり母親から卒業する時期に、徴兵制による厳しい訓練時代を迎えることになります。大学3、4年生で入隊する人が最も多いのですが、初めの一年間が地獄の苦しみだと聞きました。この時期に一番母親を恋しく想い、そのあまり涙することも度々あるそうです。そうして待ちに待った休暇の時に故郷に戻れば、自分の好物をたっぷり用意して暖かく迎えてくれる母親に会いその愛情の大きさに触れて、母親への思慕は何倍にも膨れ上がることになるようです。

そしてまた厳しい訓練に戻り、そのちょっとした息抜きに売店で買った「チョコパイ情」（韓国おやつ定番、超ロングセラー、韓国映画の中にも名脇役として登場するくらい存在感のある一品）をかじりながら、また母を想うのだそうです。

このようにして息子達は母親思いの男に育ち、結婚後も自分の妻より自分の母を優先してしまっただけ夫婦喧嘩の種になることが多いそうです。そして母親達は、息子への無償の愛を自信とし、その息子の想いを糧にして「世界最強のアジュンマ（おばさん）」へと相成っていくというわけなのです。



「オモニの味」と云えばキムバブ

家庭ではオモニが具のひとつひとつに手間暇をかけて前の晩から準備するキムバブだが、専門チェーン店や行列の出来る有名店まであり気軽に食べられるおやつでもある。日本の海苔巻きとは違って酢をふらないご飯で具を巻き、最後に海苔の表面にゴマ油をさっと塗りつける。中に入る具も、チーズ、ツナ、プルコギ、キムチ、トンカツなど、多岐多彩にわたる。

ー正しい「爆弾酒」の作り方・飲み方！？

韓国で仕事をしていれば、当然ながら韓国人と飲食する機会が多くなります。こちらが招待した場合は別ですが、先方の招待だったりするとサービス精神旺盛な彼らはできるだけ私（日本人）を楽しませようと必死で頑張ってくれます。そして私を「親しい友人だ」「信用のおける日本人だ」と思ってくれた証（あかし）!?として、いつも「爆弾酒」（ビールがベースのカクテル）を作ってくれます。その後、参加者全員で一気飲みするのが正しい「爆弾酒」の飲み方です。これで、何度か酔っぱらって立ち上がれなくなった記憶があります（正確には記憶はありませんが）。

ここで、標準的な「爆弾酒」の作り方を紹介します。

1. ビールを注いだグラスを、何杯か並べる。
2. ウィスキーをショットグラスに入れる。
3. 並べたビールグラスの上にショットグラスを載せる。
4. 箸やマドラーでショットグラスをビールグラスの中に沈める。（この沈め方に、いろいろと名前の付いたバリエーションがあります。）

因みに、韓国一、二を競う有名ホテルの和食レストラン支配人らと飲みに行くと、ウィスキーの代わりに「宮城県の大吟醸酒」を入れて作ったものを全員で一気飲みするのが通例です。“てっとり早く酔える”というのが、爆弾酒の第一の目的のようです。それでも、宮城の美味しい日本酒は爆弾酒などにせず、そのまま頂くのが良いと思うのは私だけでしょか。

ー「違う・・・」と思うこと

韓国で「？」と思っても毎日の生活の中でなんとなく受け入れてはいるものの、落ち着いて考えてみると「やっぱり違う・・・」と思うこと、いろいろありますのでご紹介したいと思います。

- ・写真プリントをする時、指定しないと日本より一回り大きい4インチ×6インチでプリントされてくる。市販のアルバムもこのサイズに対応している。
 - ・朝食の定番、納豆。冷凍のものは売っているが、冷凍でないものはなかなか売っていない。（冷凍でない納豆は高級品である）
 - ・地下鉄やバスの優先席、空いていれば若者も座る。その後年配者が乗車してくると、席を譲る前に頭ごなしにきつく叱られることがある。
 - ・横断歩道で信号待ちをしていると、横にバイクが並んできて、一緒に横断歩道を渡り歩道を走っていく。
 - ・子供服のサイズは、身長ではなく「号」表示。親切な店員が年齢を聞いてくるが、韓国は数え年なので、話がどんどんややこしくなる。
 - ・年配の方の誕生日は、旧暦を使うことが多いので毎年日付が変わるため、うっかりしてられない。
- ちなみに、旧暦・新暦・出生届の日、と誕生日を年3

東北アジア通信

回祝ってもらっている人を知っている。

- ・飲食店で満席の時の「待機名簿」にはフルネームで記入する。その際、こどもの名前を使う人が多い。
- ・韓国の新学期は3月に始まる。同じ学年になるのは1月1日生まれ～12月31日生まれの子ども。このうち1月、2月生まれ（早生まれ）の子どもたちは、一年早く入学することが出来る。
- ・会社の昼休みは、みんなで一緒に食事をするということが多く。一人で食堂に行くとお店の方に「友達がいらないのか」と心配される。
- ・ソウルの街にはコーヒーショップが多い。昼食の後コーヒー片手に会社に戻る方々をよく見かける。夏の暑い日には「棒アイスを食べながら歩いてくるネクタイ姿の男性の団体」がいて驚く。
- ・デジカメやスマホでの「自分撮り」が多い。若い女性は、地下鉄やバスの中でも余念なく撮っている。
- ・地下鉄のラッシュ時の降車は、断固たる決意を持って挑まないと、押し戻されて降り損ねる。
- ・乗車口と降車口が違うバスでも、目的のバス停が近づいたらドア前で待機していないと、早く走りたい運転手がすぐにドアを閉めるので、降り損ねるか、さもなくばドアに挟まれて本当に痛い目に遭う。

一つきあい方のコツ！？

顔かたちがとても似ている韓国の方々を見て、我々は「きっと共通点が多いはず」と思いがちです。そう思って実際に暮らしてみたところ、実に様々な違いを感じました。

それでも、我々のような駐在暮らしの者は、つきあう相手も我々が「日本人」であることを理解して気を遣ってくださる方が多いので、そんなに困ることも大変な思いをすることも、実はあまり無かったというのが事実です。

ところが、こちらで知り合った韓日夫婦の方々などは、親戚関係の付き合い方だとか、古くからの風習による行事だとか、「家族」としてつきあっていくその気苦労は、大変なものようでした。

基本的に我々日本人は仏教の教えに倣い、「人は皆平等」とか「謙譲の美德」といったものが骨の髄に染みついていると思うのです。韓国はというと儒教の朱子学の教えにより「物事には全て順序がある」という考えが基本です。つまり、何事においても「上か下か」をはっきりさせてからその後を決めるようです。初めて会った人にすぐ年齢を尋ねるという習慣も、どちらが年長者であるかによって、言葉遣いから態度まで違って来るからなのでしょう。なるほど、いろいろな場面で年配の方々は大切にされているし、親の言うことは絶対であり、親不孝など死んでも出来ないという考えも根強くあるようです。

韓国では「謙譲の美德」は通用しません。お先にどうぞと譲っていたら、次々と抜かされてしまいます。この時、抜いていく相手に悪気はなく、譲るという行為が、そもそ

もその気がないのだと思われているようです。

我々が思うことと相手と思うことは違うし、暗黙の了解は通用しません。言葉にして伝えないと決して伝わらないということをきちんと理解して相手とつきあうことが必要だと思います。

そして、日本人が苦手な「NO」をはっきりと言うことです。これを言わないがために話がこじれ、ますます強い口調で抗議されて、凹んでしまうことがあります。自分の意志をはっきり伝えることは、韓国では必要不可欠なことだと思います。

もともと全く違う人間なのだと思ってつきあうとモヤモヤもなくなるし、そうするとこのラテン系アジアンの韓国の方々は、陽気で世話好きで暖かみのある、とても良い友人だと思えてくるのです。

それから、彼らは誉められることをとても喜びます。我々は誉められると「そんなことない」と謙遜するのが常ですが、彼らはこどものように顔を紅潮させて嬉しがり、そして態度がぐっと優しくなったりします。これは韓国の方と仲良くなりたい時にオススメです。

一最後に

我々家族はまもなく韓国を離れ、懐かしい宮城（仙台）での生活に戻ります。韓国語など一言も知らずに連れてこられた息子は、韓国の幼稚園に通いこの2月に卒業式を迎えました。三年間の通園で仲良しの友だちもでき、そのオンマ達から「まるで韓国の子のようだ」と言われるまでになりました。友だちの一人は「日本の大学に一緒に行く」と言っているそうです。今後、息子が成長して様々なことを知った後でも、韓国の友だちと共に学び、遊び、一緒に過ごした時間を忘れることのないように、出来る限りのことをしていくつもりです。そして彼らが、次の新しい両国関係を築いていって欲しいと心から願っています。



あまり変わらないもののひとつ「郵便ポスト」

赤い色も大きさも、日本のポストとあまり変わらない。ハングルで書かれた「郵便」の文字と、投函口がふたつ。韓国郵便局のロゴマークは飛ぶツバメをあしらったもの。ツバメは昔から良い知らせを伝える鳥として知られ、すばやく飛ぶので、迅速に消息を伝えるという意味がある。

(2012年3月22日 寄稿：4月現在 宮城県公務研修所 次長（総括担当）)

会員の広場

東北アジア学術交流懇話会

お互いの交流拡大を目的に、会員皆様の近況・ご意見などを発信していただくスペースです(不定期)。

今回は、東北大学の国際高等融合領域研究所の助教でありながら、東北大学グローバルCOE「グローバル時代の男女共同参加社会と多文化共生」センターの連携研究員を務めている李善姫博士に寄稿をお願いしました。李氏は、韓国ソウル出身で、1994年来日し、以後17年間東北大学で地域におけるジェンダーとコミュニティを研究され、特に近年は結婚移民女性をめぐる日韓の地域社会の対応と変容に関する研究調査を進めておられます。

韓国社会を変えている「多文化」の風

東北大学国際高等融合領域研究所 助教 李 善姫



多くの日本人にとって、韓国は「冬のソナタ」で描かれたイメージで、どこか懐かしい隣国として感じている方も多いと思います。しかし、ここ15年間、韓国の変化ぶりはただならぬものがあり、韓国研究をしている私さえ、「ついていけない〜」時があるほどです。

今回は、その中でもここ10年の間韓国社会の中で最もホットな課題となっている「多文化」について紹介したいと思います。

2005年の頃から、韓国でも日本でも「多文化」という言葉が本格的に論じられるようになりました。「多文化」議論は、簡単に言うと定住外国人政策ということになりますが、日本では地域内での「多文化共生」が強調され、自治体内での「多文化共生」施策に留まっているのに対して、韓国では「多文化が未来だ」というキャッチフレーズと共に国家政策としての外国人受け入れ政策に転換した点が大きく異なります。



写真1. 韓国忠清南道論山市多文化家族支援センターにて、郵便局からの本国への送金や国際郵便に関する説明会後の記念撮影

その背景には、国内3K産業における労働力不足と農村の花嫁不足という社会問題があり、その解決策として「必要な外国人を受け入れ、統合させる」という政策転換に至ったというわけです。2011年1月現在、韓国政府の統計によると、韓国内には約125万人の外国人がいて、それは5千万人ほどの韓国人口の約2.5%となるということです。

韓国政府は、2004年に外国人労働者の労働3権を保障する雇用許可制を導入し、2005年には在韓永住外国人に地方選挙権を付与し、2007年には、「在韓外国人処遇基本法案」を制定しました。2008年には、「多文化家族支援法」が制定され、現在全国約300カ所に「多文化家族支援センター」が開設されています。「多文化家族支援センター」では、国際結婚家族に対する韓国語教育支援や通訳・翻訳サービスは勿論、就労支援や子どもへの二重言語教育を行うところもあります。

ご存じのように、長い間韓国にも「単一民族」神話がありましたし、従ってこれらの政府の動きに、当然ながら反対する声もあります。しかし、他方では「多文化」を新たなビジネスアイテムとして、あるいは企業の社会的責任として活用している



写真3. 安山市外国人住民のための図書館

こともあり、韓国にはまさしく「多文化」の風が吹きまくっていると言えます。中には外国人女性を活用した多国籍レストランが社会的企業として運営されたり、また一部の大学は、外国人結婚移民女性を特別枠として受け入れて学びの機会を提供しているのです。

行き先はまだ不透明ですが、とにかく韓国は「多文化・多民族」社会に動き出しているということでしょう。その行き先に今後も目が離せません。



写真2. 「国境のない村」と呼ばれる安山市ウォコク洞に2008年に開所された安山市外国人住民センター。外国人住民に必要な通訳や無料診療支援、外国にルーツを持つ子どもの教育支援などを行っている。



本号は朝鮮半島特集である。宮本毅氏は「白頭山火山の噴火史」の論文により本年3月に東北大学から博士(理学)の学位を授与された。阿部貴夫氏の「続 不思議の国 韓国」は前回以上に面白い。李善姫氏の韓国の多文化共生施策の話を読むと日本も開国が必要なのかと思う。読者各位のご意見・ご感想をお待ちする。

(石渡 明)

《うしとら》(東北アジア学術交流懇話会ニューズレター) 第52号 2012年3月30日発行

発行 東北アジア学術交流懇話会

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41 東北大学東北アジア研究センター気付

PHONE022-795-7580 FAX022-795-6010

<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/gon2/>E-mail: gon@cneas.tohoku.ac.jp